札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会　2013 年 10 月 9 日発行　第 18 号

とよひら・りんく NewsLetter

発行　札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会　「とよひら・りんく」事務局

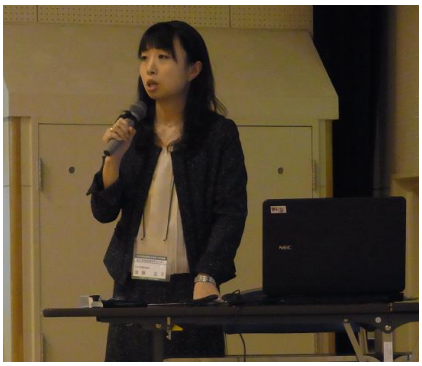
札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会
とよひら・りんく

第 2 回終末期カリキュラム研修会を開催

2013 年 9 月 30 日（月）18:30～20:00（豊平区民センター）
2013 年度第 2 回終末期カリキュラム研修会を開催しました。
医療・介護関係者等、60 名が参加されました。

在宅医療・介護の推進について

講師　後藤　友子　氏（独立行政法人国立長寿医療研究センター）



（講演して頂いた後藤友子氏）

平成 24 年度「在宅医療連携拠点事業」の事務局を務められた独立行政法人国立長寿医療研究センター在宅医療連携部の後藤友子氏に「在宅医療・介護の推進について」ご講演を頂きました。

アンケート（一部）

・全国的な状況が理解できた。（医師）
・地域の高齢者を支えていくために、更に行うべきことがあると感じた。（介護　施設介護職）
・在宅医療、介護の推進に関するデータ等を見ることができて、参考になった。（介護施設ソーシャルワーカー）

実 践 報 告

認知症の対応について、「医師」「介護施設」それぞれの立場から報告をして頂きました。

（認知症の対応について～実践報告の様子）

実践報告①（写真上）
いまいホームケアクリニック　今井　浩平　院長
実践報告②（写真下）
社会福祉法人ノテ福祉会　特別養護老人ホーム　幸栄の里　田村　素子　施設長

アンケート（一部）医師の立場から

・訪問診療の医師の考え、実際の状況を聞けて、良かった。（介護施設ソーシャルワーカー）
・お話を聴いてくれる医師がいるだけで、ご本人、ご家族は心強いと思いました。（有料老人ホーム介護職）
・在宅の高齢者やそのご家族の実情をふまえた内容で、分かりやすかった。（介護施設ソーシャルワーカー）

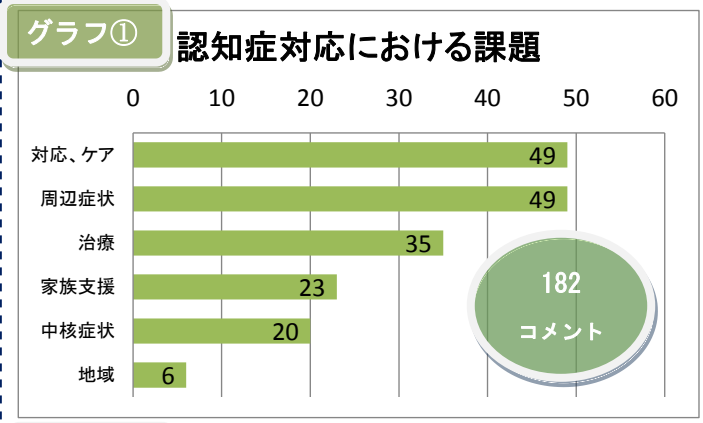
アンケート（一部）介護施設の立場から

・介護現場の実情や想いを聞けて良かった。（地域包括支援センター）
・徘徊される方への対応について、共感できた。（介護施設介護職）
・現場で苦労されていることが、よく理解できた。（医師）

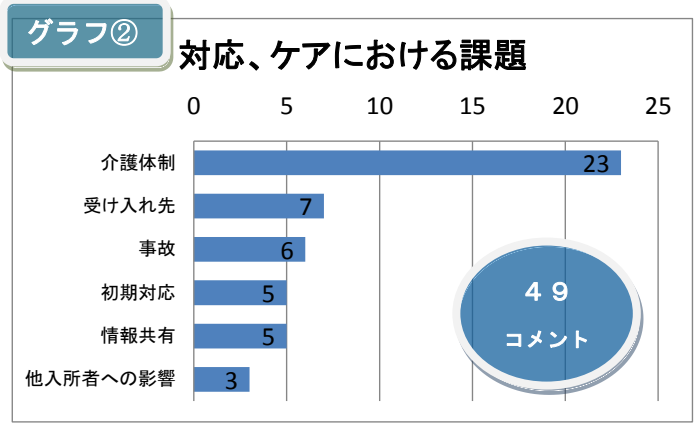
グループワーク

認知症対応における課題について、多職種でグループワーク（KJ法）を行いました。

グラフ①



グラフ②



KJ法によるグループワークで、182 コメントがありました。結果をお知らせ致します。

グラフ①の通り、「対応・ケア」「周辺症状」の対応に多くの方が課題を抱えていることが分かりました。続いて「治療」「家族支援」でした。

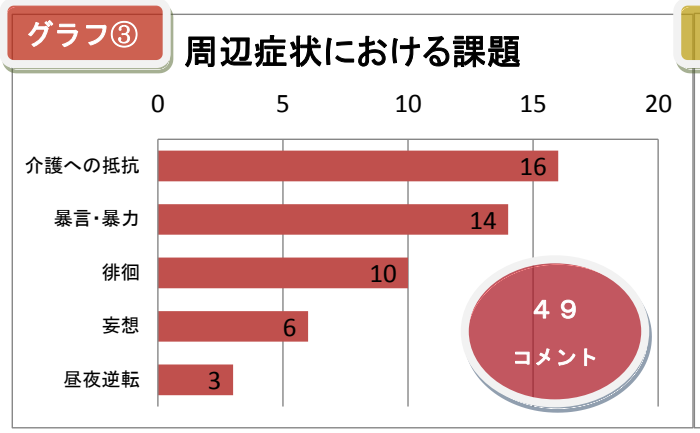
グラフ②の通り、「対応・ケア」では、「職員の経験」「入所してから施設で慣れるまでの対応」「夜間の対応」等、「介護体制」の課題が多く、続いて「受け入れ先がなく苦慮している」（医療側・介護側双方）、「転倒事故」等の「事故」の課題、「初期の認知症の方の対応」等のいった「初期対応」となりました。

グラフ③の通り、「周辺症状」では「介護拒否」等の「介護への抵抗」が多く、続いて大声も含めた「暴言・暴力」、「徘徊」と続きました。

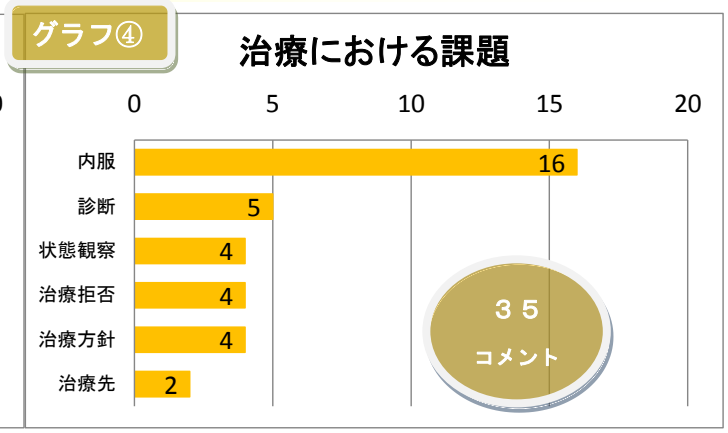
グラフ④の通り、「治療」では、服薬指導ができない等の「内服」が多く、続いて「診断」「状況観察」（自覚症状がない）が続きました。

この内容をもとに、今後更に取り組みを行いたいと考えております。

グラフ③



グラフ④



アンケート（一部）グループワークについて

- 認知症に対する多職種の考え方を聞くことが出来た。（介護施設看護職）
- 事業所が違っていても、悩んでいることは同じ部分があると分かった。（介護施設介護職）
- 多職種で抱えている問題点が浮き彫りになり、理解・共感が出来た。（介護施設介護職）
- もう少し時間が欲しかった。（多数）

とよひら・りんく事務局　西岡病院　地域連携室　岡村・川村　　ホームページ：http://www.toyohiralink.jp/
電　話 011-853-8322（平日 9－17 時）　メールアドレス：info@toyohiralink.jp